

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-180	14-321	慶應義塾大学
題名(原題/訳)		
Varenicline in the treatment of alcohol use disorders. アルコール使用障害の治療としてのバレニクリン		
執筆者		
Erwin BL, Slaton RM.		
掲載誌		
Ann Pharmacother. 2014 Nov;48(11):1445-55. doi: 10.1177/1060028014545806. Epub 2014 Aug 5.		
キーワード		PMID
バレニクリン、アルコール使用障害、ニコチン・アセチルコリン受容体		25095786
要旨		
<p>文献検索は、PubMed、International Pharmaceutical AbstractとCochrane Library(2014年5月を通して)において実行された。鍵となる検索語は、バレニクリン、アルコール、アルコール依存、アルコール依存症、エタノールとニコチン・アセチルコリン受容体を含んだ。付加的な参考文献は、文献引用から特定された。</p> <p>研究選択とデータ抽出: 結果は、飲酒患者におけるバレニクリンの使用またはその使用で経験される副作用について述べた臨床試験と症例報告に限った。ヒトに関する研究で英語の論文だけを調査対象とした。</p> <p>データ合成: 全部で、7件の無作為プラセボ対照臨床試験と1件の非盲検試験が、さまざまな飲酒関連のエンドポイントでバレニクリンの影響を評価した論文と同定された。</p> <p>研究は、アルコールに依存している患者(n=4)、アルコール非依存症患者(n=3)、アルコール依存症の既往歴をもつが、少なくとも6ヵ月(n=1)の間断酒した患者で行われた。大部分の研究は、それらの参加者を大量飲酒者と分類した;しかしながら、その定義は研究全体一致していない。大部分の研究は喫煙者を含んだ、しかし、2件の試験は喫煙者と非喫煙者を含んでいた。</p> <p>結論: 証拠は、アルコール使用障害患者における全体のアルコール消費の減少と、同様に飲酒渴望を減らすためのバレニクリンの用法を支持する。しかしながら、それは断酒率を改善しそうにはない。大部分のデータが同時にニコチン依存を有する患者に由来したにもかかわらず、バレニクリンの作用はベースライン喫煙状態からは独立しておきているように見える。</p>		